

| コード | 名称 | 区分 | コード | 名称 |
|-------------|-------------------|------------|-------|------------|
| 事業名 | 特産野菜等生産振興支援事業 | 会計 | 01 | 一般会計 |
| | | 款 | 06 | 農林業費 |
| | | 項 | 01 | 農業費 |
| 基本施策 | 伊賀ブランドの価値を高め、売り出す | 目 | 03 | 農業振興費 |
| | | 細目 | 295 | 生産振興総合対策事業 |
| 行革大綱の重点事項番号 | | 6・7 | 細々目 | 52 |
| 担当部課 | コード | 191200 | 担当者氏名 | 小林康志 |
| | 名称 | 産業建設部農林振興課 | | 連絡先 |

事務事業の概要 (Plan)

| | | |
|-----------|--|-------|
| 対象(誰を、何を) | 特定の野菜の共同栽培を行う生産組織または3戸以上の農家で集団栽培を行い、販売・加工する農業者、団体 | ※対象件数 |
| 成果(どうする) | 特定の野菜の生産拡大による販売の促進が図れる。 | |
| 根拠法令・要綱等 | | |
| 開始年度 | 平成 19 年度 | 関連事業 |
| 終了年度 | 平成 年度 | |
| H21 事業内容 | 補助対象品目(たまねぎ、なばな、ひのな、ちぢみほうれんそう、アスパラガス、かぼちゃ、きゅうり、キャベツ、こんにやく、自然薯、モロヘイヤ、蕎麦)を一定の条件で栽培した場合に反当り1万円の補助 3449.91a分 | |
| 社会情勢の変化等 | | |

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

| | |
|--------------|----|
| 1 建設用地 | |
| 2 建設面積(延床面積) | |
| 3 規模・構造 | |
| 4 総事業費 | 千円 |

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

| | |
|-----------|----|
| 1 運営主体 | |
| 委託先 | |
| 2 配置人員 | 人 |
| 3 年間運営費 | 千円 |
| 4 市内の類似施設 | |

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

| 活動指標 | 指標名 | 単位 | 実績値 | | 目標値 | |
|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| | | | H20 | H21 | H22 | H23 |
| 補助件数 | | 件 | 目標 | 20 | 目標 | 20 |
| | | | 実績 | 17 | 実績 | 17 |
| 補助面積 | | 10a | 目標 | 420 | 目標 | 420 |
| | | | 実績 | 407 | 実績 | 345 |

| 成果指標 | 指標名 | 指標設定の考え方 | 単位 | 実績値 | | 目標値 | |
|------|-----|----------------------|----|-----|-------|-----|-------|
| | | | | H20 | H21 | H22 | H23 |
| 販売金額 | | 販売金額の拡大を生産販売の拡大とみなす。 | 万円 | 目標 | 11000 | 目標 | 12000 |
| | | | | 実績 | 12116 | 実績 | 4097 |
| | | | | 目標 | | 目標 | |
| | | | | 実績 | | 実績 | |

| 投入コスト | H20 決算 | H21 決算 | H22 当初予算 | H23 当初要求 | |
|--------------|----------|----------|----------|----------|-------|
| | | | | | (千円) |
| 直接事業費計(A) | 3,992 | 3,450 | 4,000 | 4,000 | |
| Aの財源内訳 | 国庫支出金 | | | | |
| | 県支出金 | | | | |
| | 地方債 | | | | |
| | その他 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 一般財源 | 3,992 | 3,450 | 4,000 | 4,000 |
| 事業投入人件費(B) | 0.1人 720 | 0.1人 720 | 0.1人 720 | 0.1人 720 | |
| フルコスト(A)+(B) | 4,712 | 4,170 | 4,720 | 4,720 | |

事務事業の評価 (Check)

| 判断の基準(該当項目に○をつけてください) | | 備考欄(特記事項) |
|--|---|---------------------|
| 必要性 | 法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業 | |
| | 個人(の)力だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業 | |
| | 特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業 | ○ |
| | 事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業 | |
| | 市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業 | |
| 有効性 | 市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業 | |
| | 国や県、民間が同様のサービスを提供している事業 | |
| | 市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業 | |
| | 民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業 | |
| | 受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業 | |
| 達成度 | 事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業 | |
| | 【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】 | |
| | 財政状況を考慮し、事業を休廃止した場合、市民生活への影響が大きい事業 | |
| | 【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】 | |
| | 事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。 | ○ |
| 効率性 | 基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高 | |
| | サービス水準や対象を見直す余地がある。 | |
| | 当初設定した計画を 60%未満 実施している。 | 【計画に遅れが生じている場合、改善策】 |
| | 予算の繰越の有無 無 | |
| | 【予算の繰越がある場合、繰越の種別】 | |
| 昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況 | 他の事業主体の活用、事業移管が可能である。 | |
| | 基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。 | |
| | 【事業名】 | |
| | 受益者負担を求めることができる事業である。 | |
| | 全体コストにおける負担構成は適正である。 | ○ |
| コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。 | | |
| 改善策 | 一定年数経過したので、補助事業の内容をH22年度に見直す。 | |
| | 【状況】 計画のとおり進んでいない | |
| 昨年度の取組状況 | 【詳細】 | |
| | 天候不順や病害虫の発生でタマネギ栽培が減少した。 | |

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

| | |
|----------|--|
| 改善策 | 一定年数経過したので、補助事業の内容をH22年度に見直す。 |
| 昨年度の取組状況 | 【状況】 計画のとおり進んでいない 【詳細】 天候不順や病害虫の発生でタマネギ栽培が減少した。 |

今後の方向性 (Action)

| | |
|------------------------------|---|
| 担当課長氏名 | 服部伊久夫 |
| 事業の方向性 | 【方向性】 手法改善 |
| | 【理由】 農産物の出荷・販売額の増加を目指す方向性であったが、加工や他業種との連携などの要素を加味する。 |
| 現時点における課題、その他 | 出荷販売額は、天候などの外的要件に左右される割合が大きい。 |
| 課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする) | 平成22年度中に、補助事業の実施によって一層高度な経済効果が現れるよう見直す。 |